

キララに来れば世界が見える。

「キララ夏の学校」

2007 白州

KILALA NEWS

発刊日 2007年7月7日
編集発行 キララ新聞社
山梨県北杜市白州町横手 2259
電話 0551-35-0131
FAX 0551-35-0132
<http://www.hakusyu.jp/kilala/>
info@hakusyu.jp

主催 キララ新聞社

後援 白州郷牧場・白州森と水の里センター

開催期間：2007年8月3日（金）～9日（木）

開催地：山梨県北杜市白州町横手

子どもたちの 小さな、しかし 大切な フィールド として

秋山 眞兄（校長）

昨年の「夏の学校」案内パンフレットに、季節の学校キララの願いは「子どもたちに、生きる力をつけてもらいたい」ということだと書きました。その「生きる力」とは、「自分にはちっぽけな存在でしかない。でも、かけがえのない者だ。だから、かけがえのない仲間や自然とともに生きていこうと感じ、自覚し、確信すること」だと書きました。

この中に含まれていることで、しかし、明確に記さなかったことがあります。それは「責任」ということです。「責任をとる」ということには、2つのことがあります。

第一は、過去に対して、起きたことに対して「責任をとる」ということです。この文章を書いている今も、豚肉を牛肉に偽っていた事件をはじめ、さまざまな責任問題がマスコミで騒がれています。誰もが、時には極めて感情的に、責任をとることを他者に迫ります。特に、強者は責任を弱者にかぶせようとしています。教科書検定問題として話題になっている沖縄戦における「集団自決」問題も、その面が多分にあります。

第二は、将来に対して、起きていないことに対して、あるいは起きつつあることに対する「責任」です。「責任をとる」のではなく、「責任的にかかわる」といったほうがよいかもしれません。特に弱い他者へのかかわりです。日本では国家も行政も企業も、そして私たちひとりひとりも、この「責任」に対しては極めて意識が低い、といわなくてはならないでしょう。それが、この殺伐とし、荒涼とし、偏狭な日本社会を作り出している大きな要因であるといっても過言ではないでしょう。

ただ、この第二の責任意識を、単に倫理的なものとして、あるいは思想的なものとして身につけさせようとしても、なかなか困難ではないかと思われれます。この責任意識は、日常の暮らしのなかでしか育まれない面があるのではないか。多くの先住民族のひとびとの自然との付き合い方、他者との関係の仕方、暮らしのたたずまいを思うと、そう思わざるをえません。そうならば、そのような責任意識が喪失している現在の社会の中では育まれないということになります。しかも、この責任意識の本質は義務的なものとして認識させられるのではなく、自主的で自発的なものとして身につけていくものでもありましょう。

白州の雄大で、かつ、こまやかな自然に触れ、農と食のつながりを通して命に触れ、さまざまな人たちとつながる豊かさに触れる。この学校キララの営みは、子どもたちが自ずから第二の責任意識を醸成させていく小さな、しかし大切なフィールドになっていると、私たちは信じています。



2006年キララ夏の学校でのジャガイモ掘り

「キララの 学校」と 白州 について

山梨県北杜市白州町横手

こんなところ

学校の開催地は南アルプス・甲斐駒ヶ岳の麓、標高800mの白州横手の山里です。南アルプスと深い森に抱かれた高原の村里です。村を縦横に花崗岩の水が走る名水の里でもあります。豊かな自然が子供たちの人格形成を応援します。

農と生活のフィールド白州郷牧場は

子供たちの教場となる農場は6000羽の平飼養鶏と10頭の和牛と5.1ヘクタールの農地で有畜循環農業を26年間営んでいます。今年、農場は5.1ヘクタールの畑に「有機JAS」認証  を取得しました。これで子供たちが農に触れ自然を学ぶ田畑は「確かな安全性」が公的機関によって保証されました。子供たちを迎える畑はいつもの夏野菜が揃うよう今急ピッチで準備を進めています。

その他、2棟の宿泊棟となる研修センター、麴や発酵食品をつくる加工所、視聴覚室を含んだ図書館などの付帯施設と研修センター背後の森も子供たちの生活と学びの場となります。

農場のスタッフと村の人たちと都会の大人と

子供たちと一週間のキララの学校をつくる大人たちは、農場のスタッフ、横手の村のおじさんおばさん、そして都市の大学や高校で教える教師たち、幼稚園や保育園で働く人、様々な専門職の人たち、そしてキララの学校OBたちです。

子供たちは様々な大人たちや山や森や水や生き物を見て触れて付き合い生活し学ぶ一週間になります。

毎日の食材は、農場の農産物を主体にBMW（バクテリア・ミネラル・水）農法を実践する全国の仲間の農業者たちから届けられる農産物を利用します。

食材の原型に触れ、自分達で収穫し調理し、楽しく食べるという生きた食育が実践されます。

◎子供たちの緊急時の医療は隣村の武川診療所でお世話になります。（保険証のコピーは忘れないでください）

白州郷牧場

ホームページ <http://www.hakusyu.jp/>

電子メール info@hakusyu.jp



竹の食器をつくるために横手の竹林へ歩く子供たち

集合 — 8月3日(金)午前9時

新宿駅西口 小田急の向かいスバルビル前

●そこからは皆で貸切バスで行きます。集合は時間厳守をお願いします。場所は西国分寺ではありません。お間違えのないように。



解散 — 8月9日(木)午後4時半頃

集合した、新宿駅西口 小田急の向かいスバルビル前

●道路事情で多少到着時間が前後する場合があります。ご了解下さい。



持ち物 — 必ず名前を書いてください!

必ず自分で持てるようなザックに、入れられる範囲の荷物にしてまとめて下さい。

着替え

洗濯するので4、5日分で大丈夫です。

パジャマは特に要りません。

羽織れる薄手のシャツ、

厚手のトレーナー、長ズボンが必要です。

洗面用具

タオル

水着

帽子

脱げにくいビーチサンダル

雨具(登山用の雨具は上下分かれたものを)

ぞうきん

サブリュック

懐中電灯

水筒

初日の昼食弁当

筆記用具

保険証コピー

寝袋を持っている子は持参してください。野外で寝ることもあります。

●必ず自分で荷物の用意をさせてください。自分の持ち物かどうかを分からない子があります。

●忘れ物が大量に出ます。名前をはっきり書いてください。

●無くしたり壊れたりしたら惜しいものは持たせないで下さい。

●農作業などや野外の活動で、服や靴は汚れます。着慣れた服・履きなれた靴など汚れても惜しくない物を持ってきてください。

●余分なお金、ゲーム機、携帯電話、お菓子は持たせないでください。

●虫かご・絵を描く道具・勉強道具などは各自でご判断ください。

参加費

小学生 42,000円 中高生 45,000円

開催地で合流する場合は、

小学生 38,000円 中高生 40,000円

●兄弟姉妹で参加の場合、2人目から各4,000円の割引制度があります。ご連絡下さい。

●白州町・横手の子供達の参加に当たっては参加の様式と参加費用について別途対応となります。歓迎いたしますのでご連絡下さい。

参加費振込先

①山梨中央銀行 国分寺支店 普通口座 916410

キララ 見田由布子

②郵便振替口座 00200 - 4 - 95036

白州・キララの学校

●郵便振り替え用紙は夏の学校案内に同封してお届けしております。ご利用ください。

●申し込み後、お振込みください。

参加申し込み

7月25日までに同封の申し込み用紙を、

白州森と水の里センター FAX 0551-35-0132

までFAX送信してください。

●申し訳ありませんが、参加申し込みはFAXでのみお受けしています。

●記載事項は可能な限り詳細にご記入ください。締め切りは7月25日、先着40人までとさせていただきます。

お問い合わせ・緊急連絡

は下記のいずれかで承ります。

- ・白州郷牧場 0551-35-4520
- ・白州森と水の里センター 0551-35-0131
- ・秋山校長携帯電話 090-5406-3523
- ・担当池原携帯電話 080-1088-1856

その他 メールでのご連絡は、
info@hakusyu.jp で承ります。

(参加申し込みはご遠慮ください)

キララの学校のホームページをご覧ください。

http://www.hakusyu.jp/kilala/



また右のQRコードを読み取っていただくことで、携帯電話からも「きららの学校」の最新情報をご覧いただけます。



きららに来れば世界が見える

世界！それは外国のことかもしれません。日本の中のことかもしれません。今のこともかもしれないし、過去のこともかもしれません。未だ行ったことがない世界、知らない世界で何が起きているのか、何が起きたのか。ひとはどのように生きているのか、どのように生きたのか。自分の世界が広がるプログラムです。(校長担当)

きららに来たら飯を作る～竹の食器作り

まず、きららの学校に来たら、竹で食器を作ります。器に箸にコップをみんなで作り、抗菌効果抜群な竹の食器を学校中ずっと使います。もちろん、使ったら自分で洗います。

夕飯は日替わりでそれぞれの班がみんなのご飯を作ります！何が出るかは出てくるまでわかりません。自分達で作って食べるご飯は格別なはず、昨年の学校では毎晩空っぽになる鍋とお米の消費量の凄さが物語っていました。

朝食は一日の源。元一流シェフ数名が腕をふるって、一流ホテル並みの朝食が毎朝並びます。「こんな朝ごはんだったら、家でも毎日ちゃんと食べるのに…」ときっと子供達は思ってくれるでしょう。

昼食はその日のプログラムによって、外で食べたりもします。川で食べたり、畑で食べたり…その場でおいぎりを自分で握ったりもします。

家に帰る頃には舌が肥えていることでしょう。



発酵菌体の話

生ゴミを発酵させて鶏にやってみよう！

でもでも、発酵って何？

どうやら菌が働いてくれるらしい…

でもでも、菌が働いてってどういうことだろう？

自分達で作って、観察してみよう！

手で触れて、匂いをかいで発酵を体感しよう！

鶏さばき

おいしいお肉を食べるとき、「牛」や「豚」や「鶏」と「お肉」のあいだには、かならず「さばく」が行われる。一体なんのこと！？ほんの少しでも頭の中に入れておいてね。お肉がもっとおいしく感じられるかも…



発酵がわかる！？

「発酵」というと何を思い浮かべますか？

大人なら「お酒」と言う人も多いかもしれません。近頃馴染みの薄い漬物や味噌・納豆など日本の伝統的な食物はほとんど発酵という微生物の活動を人間が利用することによって完成する食物です。

そればかりでなく、きららの学校で君たちが活動する農場の畑の土も微生物の発酵作用によって作物を作れる良い土になります。鶏や牛は「発酵飼料」という餌を食べて腸内の細菌を整え健康な身体を作っています。

私たち人間の身体も微生物の活動と切っても切れない関係にあり、「発酵は地球を救う」という学者さんもあるほどに地球規模で広範に微生物たちが活躍しています。生命の大切な基盤をつくっています。

その「発酵」のほんの一部分をこの夏の学校で経験しようと考えています。

①まず、麴を仕込んでみます。これは、麴カビをお米に増殖させる作業ですが50数時間という時間経過の中で麴カビがお米に侵食し米が麴になっていく過程を観察しながら付き合ってみます。

②出来た麴で甘酒を造ってみましょう。夏の暑さを乗り切るための滋養強壮飲料です。

③畑で収穫したきゅうり・茄子などの野菜を麴で漬けてみましょう。その他、糠床を用意していますから糠漬けも作ってみよう。

毎日自分達でつくる食事に食欲をそそる一品の漬物を添えることとなります。

麴仕込みから甘酒をつくり、漬物を漬け、食べてみることで「発酵」の実際を体験するプログラムです。

きららに来れば地球がわかる

きららの学校では、白州の自然をフィールドにして、私たちが住む惑星である地球のことを詳しく知り、感じるためのプログラムをいくつか行います。たとえば牧場の近くを流れる尾白川や大武川では、川で泳ぐのはもちろんですが、そのついでに川原の岩石を観察して、岩石が水をつくる様子について考えます。また八ヶ岳への登山では、火山の噴火によって、岩石や陸地が新しくつくられていく様子を実際に歩きながら観察します。夜は星の観察を行い、宇宙と地球の関係に思いをはせてみましょう。また、これらのフィールドワークに関連した、地球と日本列島の歴史についての講義も行います。



電気ってやつはシビレル

触るとほんとうにビリビリとシビレル電気。テレビもクーラーも冷蔵庫もパソコンもみんな電気で動く。電気がないと役に立たない。便利で楽しい生活。えらいぞ、電気。

電気は熱を出して物を溶かしたり、黒こげにしたりする。人間の心臓とかも簡単に止まるらしい。すると死んでしまう。おいおい危険だぞ、電気。

電気はエネルギー。熱とか重力とか原子力もエネルギー。これって元はみんな同じ力なの？実は科学者もまだわからない。「超統一理論」といってこれがわかったら絶対にノーベル賞とかいってる。「超」とか「統一」とか、なんだかすごいぞ、電気。

こんなシビレル電気についてもっと知ろう。電気は自分でも簡単につくれるよ。風車や水車で電気をつくってみよう！みんなでビリビリしよう！

木の名前を知ろう

私たちの顔が一人ひとり違い、違う名前をもつように、木の顔も一つ一つが違い、違う名前をもっています。葉の形から木の特徴をつかみ、木の名前を覚えてみましょう。ぼんやりとひとくくりに見えていた森が、違った姿で見えてくるかも！？

きららに来ればリズムと音が見える

今年の夏の学校では、きららの歌をみんなで創りたいと思います。言ってしまうと校歌です。毎年変わっていく校歌も面白いのではないのでしょうか？もちろんリズムでも遊びます！嵐を呼ぶ男と言われた凄いドラマがやってきます、お楽しみに！

その他のプログラムは…

川遊び

セリ田の生物観察

山登り

キララ祭り



「きらら夏の学校」 参加申込書

フリガナ

参加するお子さんの氏名：

保護者さまの氏名：

住 所：

電 話：

緊急時連絡電話番号：

保護者さまのメールアドレス

パソコン：

携帯：

参加するお子さんの性別：男・女

お子さんの生年月日： 平成 年 月 日

お子さんの現在の学年： 小・中・高 年

●初めて参加の方は紹介者またはきっかけをお教えてください：

●白州・キララの学校に参加したことのある兄弟・姉妹がいたら
お名前をお書きください：

●お子さんについて特にご心配なこと、キララスタッフが注意を要することなど
あればご記入ください：

●参加申し込みはこの用紙にご記入後、FAXで送信下さい。

FAX 番号 0551-35-0132 白州森と水の里センター

または 0551-35-2970 白州研修センター までお願い致します。